

2025 年度地域遺産支援プログラム（一般プログラム）

本選考総評

2025 年 1 月 31 日

支援事業委員会 委員長 鈴木伸治

公益財団法人日本ナショナルトラスト（JNT）では、持続的に地域遺産が守られる「仕組み」づくりと、これらが広く社会に普及することを目指して 2024 年度に地域遺産支援プログラム(愛称：トラスト・エール)を創設いたしました。このプログラムでは、地域遺産を活かした活動を進めるための基盤づくりを行う「たねまき（A 型）」と、地域遺産保全の仕組みづくりを構築する「ひろがり（B 型）」の 2 つのコースを設け、第 1 回目の公募を行ったところ、全国各地から 14 件の応募がありました。

選考にあたっては、支援事業委員会において冒頭に述べた事業趣旨を確認し、A 型では①主体性、②事業内容、③シンボル性、④まちづくりの機運、B 型においては、①実行性、②シンボル性、③事業効果、④地域遺産の広がりや活動の展開、⑤先進性、⑥モデル性、⑦継続性の評価軸から、委員の利益相反がないことを確認して厳正な選考を行いました。その結果、A 型 2 件、B 型 2 件が採択候補に選ばれました。

選考に関しては、申請者のプレゼンテーションを参考にするものの、申請書の内容を審査することが基本になります。各申請者の書類を見ると、提案内容が整理されており簡潔に示されているか、内容に整合性が取れているかといった点にばらつきがあり、申請書の書き方が採択結果に結びついた印象です。この点については、表現の巧みさということではなく、地域や申請団体等の課題について客観性を持ってしっかりと分析し明確に示すこと、それを背景に事業構築をし、事業内容から成果まで一貫性があることが重要です。このような書類は、審査委員が読みやすく説得力のある申請書となります。また、得られる成果がその団体や対象とする地域遺産のみに留まるのではなく、地域コミュニティや他団体と連携することで、地域遺産の価値に対する認識の広がりが見られるか、活動が幅広く展開するか、といった点が重視されました。それから、JNT の支援が活きる事業内容かという点も問われました。JNT の持つ専門性や公益団体という特性、また全国的なネットワークをうまく活かせるかということであり、この点は WEB サイトなどでも公開されています。応募に際しては、JNT が開催する事業説明会を活用し、具体的に相談することをお勧めします。また B 型は、どの申請者も提案する仕組みの中でモデル性、先進性を示すことに苦慮した印象です。類似する他の事例をある程度学びながら、地域の強みや、地域特有の課題に対する具体的な解決策を仕組みに取り入れることで、他地域との差別化や閃きが見られることもあるのではないのでしょうか。

本事業は助成事業ではなく、申請者の企画提案に対して専門家がノウハウ等を提供し、JNT の伴走支援により地域の課題を解決し仕組みをつくる事業である点に特徴があります。本プログラムで支援できる内容と、この事業で地域に求めることを明確に示すことが必要です。この後、JNT が今回の採択団体とともに各地で事業を展開することでより鮮明になることもあるでしょう。第 2 回目の公募(※)においては、上記の点に留意され、申請いただくことを期待します。

以上

※第 2 回目の公募を実施する場合は、JNT の HP で公開します